



デヴィッド・シー・ベル

内木才鑑三は1885年(明治十八年二十五歳)白痴院
院長ケルリンに伴ふワシントン市に赴く途中鉄道
馬車の中で未見の紳士ベル氏と相識り、ワイアードホテル
で暫時歓談し別れた。これが縁機となつて緊密なる
友人関係を継続することとなつた。氏は内木才より二十ほどの
年長者であつた。

内木才は紫雲翁之北米より帰朝して附して1888年(明
治二十一年)六月二十日ベル宛發信第一に始まり1927年(昭和
二年)七月九日、第百八十四條に至る三十餘年を渉る交情の交換
であつた。

和名の會見は鉄道馬車中のそれと1921年(大正十年)七月十九日東京海上
陸軍部父子日本前泊の時と只二回のみであつた。
内木才は程井沢り案内に優遇を敢てした。